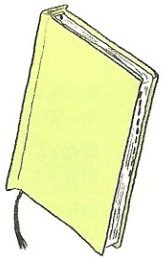
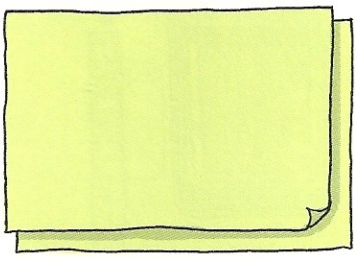
ほぼ日手帳 製本キット（オリジナル用）

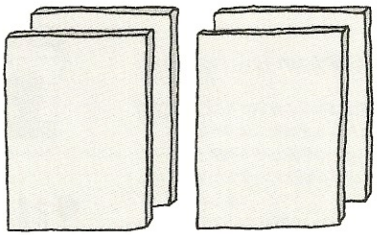


あなたの1年がつまったほぼ日手帳をじぶんの手で製本するためのキットを、手製本の会社「美篶堂（みすずどう）」さんと一緒につくりました。1年をともにしたほぼ日手帳をじぶんの手で本に仕上げるよろこびを感じていただけたらうれしいです。書き込まれる役目を終えた手帳が、今度は世界でたった1冊の書物になります。

このキットに含まれるもの（このキットで2冊分の製本ができます。）



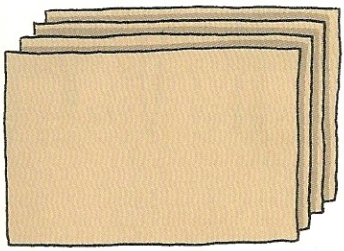
表紙布 2枚



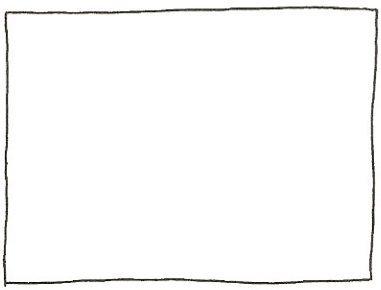
板紙（表紙用）4枚

板紙
（背表紙用幅19㎜）1枚

溝あき用の薄い板紙
4枚



見返し用紙 4枚

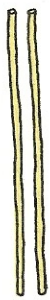


裏打ち用紙 1枚
（じぶんで布を用意する場合につかう）

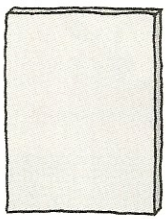
しおり 2本

寒冷紗 1枚（2冊分）

花布（2冊4箇所分）1枚
（本文の幅に合わせてカットしてつかう）



竹ひご 2本



板紙
（背表紙用予備　幅102㎜）1枚

※本文にいろいろ貼ったり挟んだりして本体が膨らんでいる場合は、本体の厚み＋4㎜でカットする

用意するもの ☆印がついているものは、「美篶堂オリジナル製本道具セット(別売)」に含まれています。

❶製本(紙工作)用ボンド☆
無い場合は市販の木工用ボンドで代用可能。

❷でんぷん糊☆
製本用ボンドと水と混ぜてつかう。

❸竹の指輪☆
紙を折ったり、表紙を芯紙に巻くときにつかう。

❹刷毛(幅3cm、6cm)☆
広い面積と狭い面積用に2種類必要。

❺クリップ2個☆
本体を押さえるためにつかう。

❻バット(2個)☆
糊、ボンドを入れる器としてつかう。
底が平らでふちが直線のものがつかいやすい。

❼竹ひご2本☆
表紙のみぞを形づくるのにつかう。

❽ハサミ

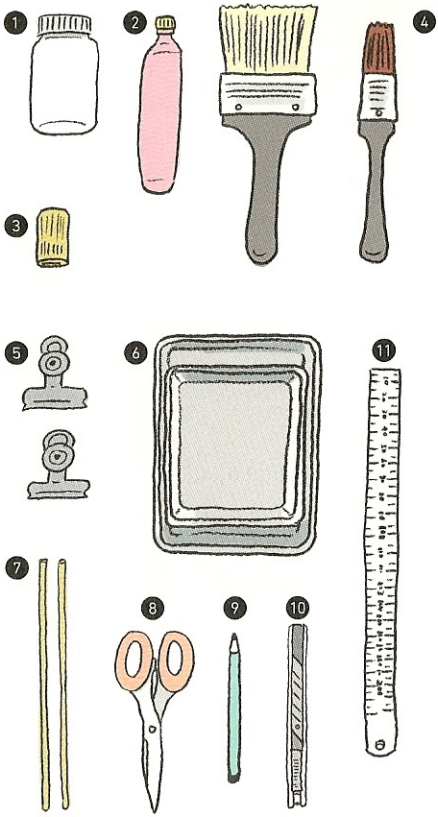
❾鉛筆

❿カッター

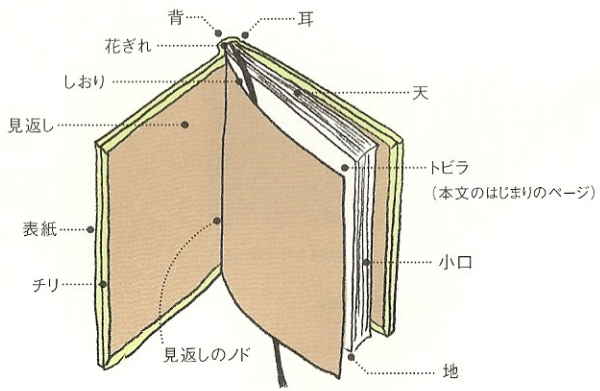
⓫定規
30cm以上のもの。カッターで削れないように
金属製のものがよい。

・敷紙
表紙布の裏面に糊をぬるときの敷紙としてつかう。
製本キットに含まれている20cm×30.5cmの
台紙(薄い板紙)でも代用可能。

・巻き紙
表紙布を厚紙に貼りこむ時につかう。
薄手のクラフト紙など。コピー用紙でも代用可能。



各部の名称



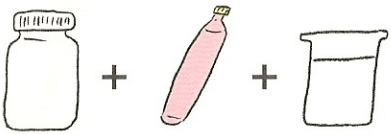
糊の作り方

生ボンド（「製本のしかた」では「ボンド」と表記）

製本（紙工作）用の強力なボンドをつかう。背固めや溝など壊れてはいけない部分にはそのまま使用する。

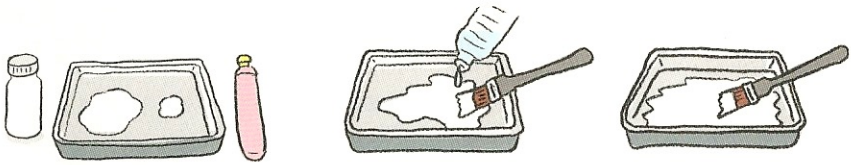
注意 製本用のボンドがない場合、市販の木工用ボンドで代用が可能ですが、あとでひび割れたり、剥離したりすることがあるため、なるべく製本（紙工作）用ボンドをつかうことをおすすめします。

糊ボンド（「製本のしかた」では「糊」と表記）



表紙、見返しなど、面積の広い部分に使用する。

注意 ご自分で用意した布に裏打ち用紙を貼る場合絹や化繊を表紙布としてつかう場合はボンドを使用すると浸透してシミになるおそれがあるのでデンプン糊のみをつかうことをおすすめします。



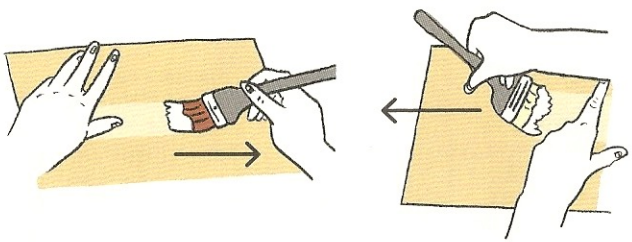
① ボンドとでんぷん糊をバット（器）に入れてよくかき混ぜる

② 水を少しずつ加えながら、刷毛でさらによくかき混ぜる

③ とろっとした感じになったら完成

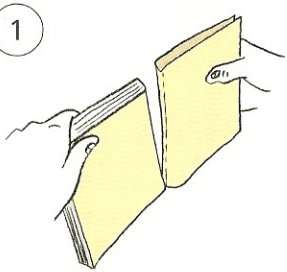
刷毛のつかいかた

紙の中心から外側に向けて放射状に刷毛を動かして糊をぬる。指で押さえた箇所をぬるときは、反対側を押さえてぬる。



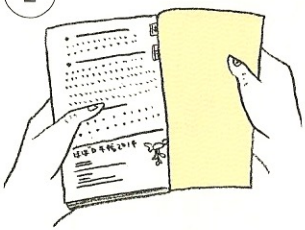
製本のしかた

1



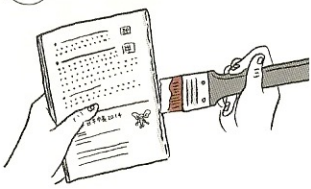
手帳本体の見返しのノドにカッターでキズをつけ、表紙と裏表紙を開いてつまみ、ひっぱって本体の背からはがす。

2



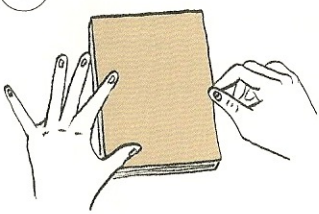
見返しをはがす。

3



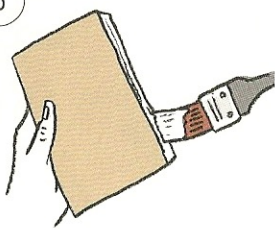
ボンドを本体の背側のふちにぬる。

4



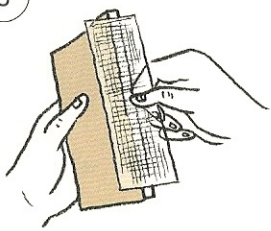
見返しの紙を二つ折りにして折り目が本体の背側になるように貼る。反対側も同様に。

5



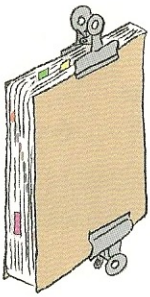
本体の背にボンドをぬる。刷毛は中心から外に動かしまわりが汚れないようにする。

6



寒冷紗を半分に切り、背の中心に貼る。

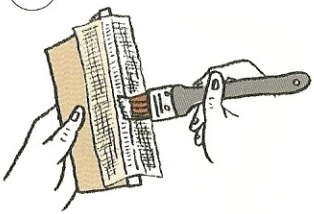
ほぼ日手帳本体にいろいろ貼りこんだりしてふくらんでいる場合は、見返しを貼った時点でクリップで上下を固定しておくとよいです。



製本用ボンドがない場合は木工用ボンドでも代用可です

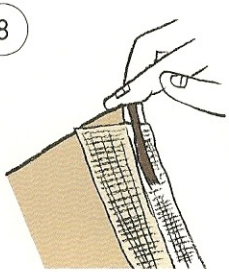
※あとでひび割れたり、剥離したりすることがあるため、なるべく製本（紙工作）用ボンドをつかうことをおすすめします。

7



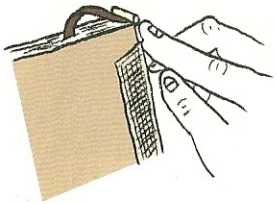
寒冷紗の上から背にもう一度ボンドをぬる。

8



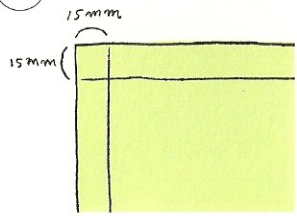
本体の背の「天」側にしおりを約15～20㎜貼る。

9



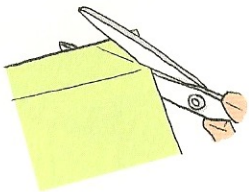
花布を背の角にひっかけるように、天と地に貼る。

10



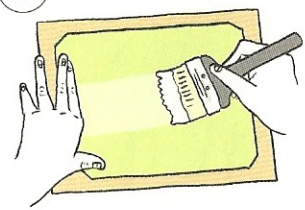
表紙布を長辺が横になるように裏返し、裏面の左の短辺と長辺の端から15㎜に線を引き、板紙を貼る位置に印をつける。

11



四方の角を三角に切り落とす。(「表紙布と板紙の配置図」参照)

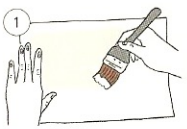
12



敷紙の上に表紙布をのせ、裏面全体に糊をぬる。

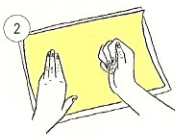
お気に入りの生地をつかって製本する場合の裏打ち用紙の貼り方

1



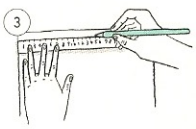
裏打ち用紙に糊がかすれたり、たまりができないようにむらなくぬる。

2



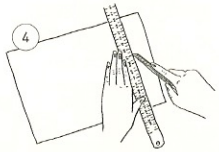
表紙用の布を裏打ち用紙に貼り、よくこすりこむ。裏面からもこするため、裏打ち用紙の余白を布の端で折る。

3



裏打ちした表紙布の裏面に、次ページの「表紙布と板紙の配置図」の外枠の寸法（横270㎜×縦185㎜）で線をひく。

4

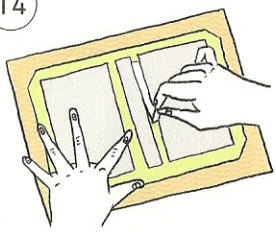


表紙用の布を線に沿って切る。

13

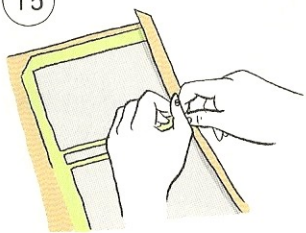
表裏の板紙と背の板紙の間に溝あきの薄い板紙を置き、⑩でひいた線に沿って板紙を貼る。

14



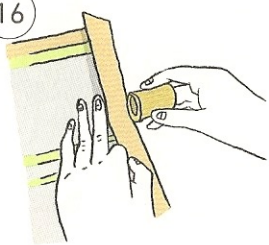
溝あきの薄い板紙をはがし、敷紙をはずして巻き紙（薄手のクラフト紙もしくはコピー用紙など）をしく。

15



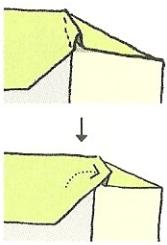
長辺から巻き紙よく引っ張りながら折り返す。

16



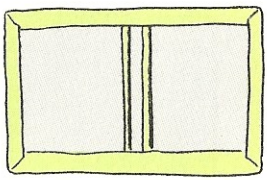
巻き紙ごとひっぱりながら指輪でこすり、よく糊付けする。

17



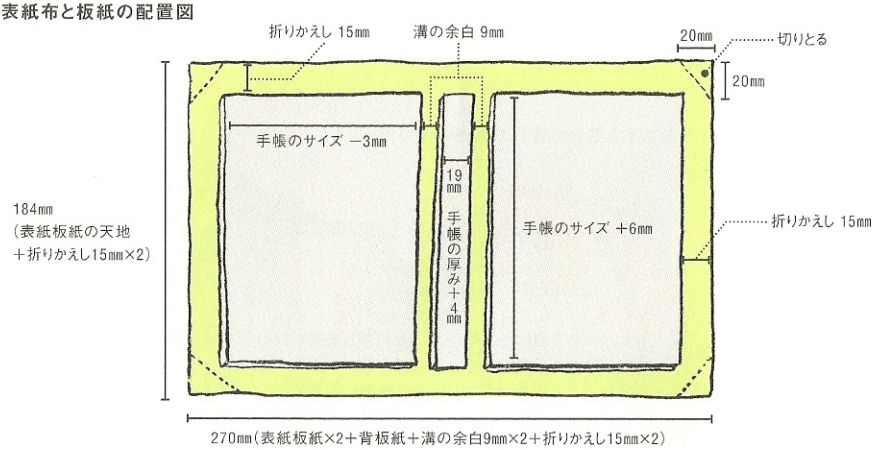
布の角をすっきりと折りたたむ。（つめいれという）

18

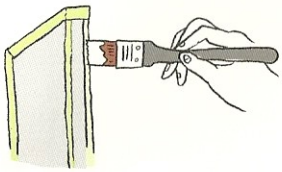


短辺も長辺も同様に巻いて折る。

表紙布と板紙の配置図

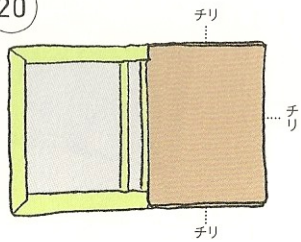


19



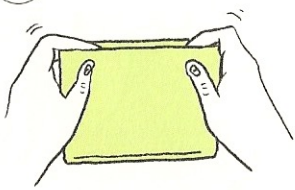
溝にボンドをぬる（折り返し部分にはぬらなくてよい）。

20



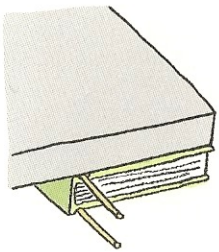
表紙の右側に本文を3辺のチリが均等に出るように置く。

21



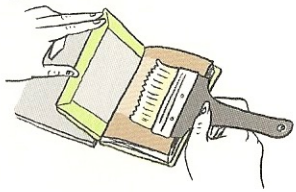
天地のチリが均等なのを確認し、同様に小口のチリも均一になるように本体をしっかり押しこむ。

22



溝の上下に竹ひごをかませて、上から重しをのせてしばらく置く。次の作業では竹ひごをはずす。

23

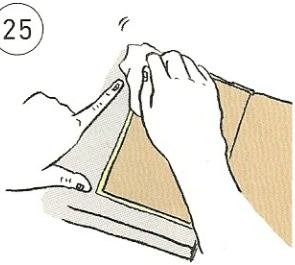


本体の厚みと同じ高さの台座を用意し背にあてる（表紙が90°以上開かないよう）見返しの内側から放射状に糊をぬる。

24

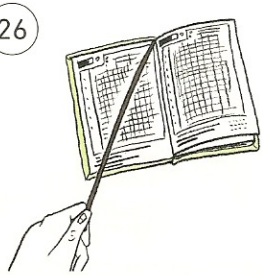
表紙を閉じて上から押さえる。

㉕



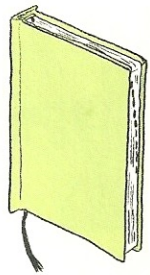
表紙を開いて台座に置き、乾いた布でよくこする（反対側も同様に）。

㉖



しおりを対角線より1.5〜2cm長めに切る。

㉗



竹ひごを再度かませてプレスをして、一晩おいてできあがり。（㉒をもう一度する。）

美篶堂について

長野県伊那市美篶に製本所を、東京神保町の竹尾「見本帖本店」内にショップを運営する手製本の会社。
1983年の設立以降、特装本、上製本、和綴じ他、美術製本を手がける。
1999年よりオリジナルステーショナリー「みすずノート」「虹色ブロックメモ」などを発売、
2003年より製本ワークショップを開始、製本の楽しさを発信する活動をしている。
著書「はじめての手製本-製本屋さんが教える本のつくりかた」（美術出版社）
「製本工房・美篶堂とつくる文房具」（河出書房新社）
「ちいさくてかわいい手づくりの本」「材料つきですぐできる、はじめての豆本」（グラフィック社）
ウェブサイト：http://www.misuzudo-b.com/

製造：美篶堂
販売：ほぼ日刊イトイ新聞（東京糸井重里事務所）http://www.1101.com/